

街を飲み込んだ記録的豪雨 平成最大の水害



泥にまみれた無残な姿 必死の復旧復興作業

活発な梅雨前線による西日本豪雨による死者は17日現在14府県で217人、安否不明は4県で15人となり「平成最大の被害」となりました。街全体が濁流と土砂に飲み込まれた岡山県倉敷市真備町をはじめ各地で深刻な被害をもたらしました。自然災害とはいえず、こんなに多くの犠牲者を出してしまったことに「防ぐことができなかったのか」と誰もが感じており、あらためて災害に強い街づくりが急務です。

滋賀の河川流域でも発生する可能性大

テレビの映像で河川の氾濫や土石流による被害状況が流されるのを見て「決して他人事ではない」と誰もが思ったことでしょう。5年前の台風18号の影響で、杣川流域でも信楽高原鉄道の橋脚が流失するところでした。滋賀県ではこれを受け「100年に一度」を見直し、新たな基準による水害想定地域を指定しました。特に野洲川と杣川が合流する地域は、これまでの想定を上回る規模で災害が起ると想定されています。それだけにそれに対応するハザードマップの作成や対策が必要です。

過去の教訓をいかして

特に今回の豪雨による被害で教訓的だったのは、京都嵐山の桂川でした。2013年の台風時には堤防が決壊し桂川が氾濫しました。今回被害が少なかったのは、5年前の教訓を受け「渡月橋の近くで河床のゴミや土砂を撤去したこと、井堰を取り払い、川の流れやすくしたこと」と報道されていました。

河川整備・改修が急務

災害を拡大する要因の一つは、遅々として進まない河川整備・改修です。ま

国の予算拡充こそ

ところが河川整備にかかる国や県の予算が年々削られているのが実態です。滋賀県の河川整備予算では、特に「補助河川改修事業費」が極端に下がっています。国の予算が削られているという事です。大型公共事業に税金投入するのではなく、こうした災害に強い街づくりをすすめるために予算を拡充する必要があります。

8月には日本共産党滋賀県地方議員団として政府・国土交通省に対して直接要望し、交渉する予定です。ご意見・ご要望などお聞かせ下さい。

近況

厚生文教常任委員会視察研修

山岡光広

厚生文教常任委員会は11日・12日の両日、岡山県新見市を訪れICT授業で先進的取り組みを、また兵庫県小野市では今年4月から稼働した給食センターを、さらに兵庫県川西市では新しくPFI方式で設置した市民体育館を訪れ、視察研修を行いました。(写真は新見市役所前)

新見市では、ICTを授業に取り入れることにより、子どもたちの授業に対する意欲が高くなり、グループ学習も効果を発揮している事例が。新見市では当初から4つのパック(①各教室に電子黒板、②子ども一人に一台のタブレット、③支援員の配置、④無線WiFi環境整備)を進めてきたのが特徴で、甲賀市としても生かすべきだと感じました。

小野市の学校給食センターは、5,200食を三台で配送。アレルギー対応は「まず除去食から」対応していることが報告されました。

川西市の体育館は、PFI方式で運営されていますが、コンセプトがしっかり生かされているために、体育館の利用者は従前の二倍近く伸び、高齢者も健康維持のために利用しているということでした。



19回目の議員団主催

議会報告会

7月14日(土)午後2時から信楽町勅旨の勅旨会館で議会報告会を開催(写真)。毎定例会後に旧町持ち回りで開催し19回目。

3人の議員から6月議会の一般質問や補正予算、意見者などの特徴を報告。

参加者から災害対応、選挙不正問題、文化財保護、旧甲賀病院跡地利用、水口公民館の建て替え、スクールガードの補償など多岐の要望、意見が出されました。

日本共産党

甲賀市議員団ニュース

2018年 7月 22日 第225号



山岡 光広
甲南町森尻 16
TEL 86-2985
Fax 86-0415



小西喜代次
信楽町勅旨 456
TEL 83-0765
Fax 83-0765



岡田 重美
土井町北山78-15
TEL 66-0696
Fax 66-0696